題林愚抄第一

春部一

立春

金葉　此御抄云立春とよめしきかすとまさるゝよし

うちなびき春はきにけり山川のいはまの氷けふやとくらん　修理大夫顕季

同　春たちて梢にきえぬ白雪はまだきにさける花かとそ見る　春宮大夫公実

同　いつしかとあけゆく空のかすめるは天の戸よりや春はたつらん　藤原顕仲

新古　けふといへはもろこしまても行春を都にのみと思ひけるかな　俊成

同　こうれ浅乃はらとしをきにしきのゝ神も春やしるらん　同

新勅　あまの原わかるゝ気色もさゆく雲井にこそ春はたちけれ　同

續拾　うち霞しハ一夜の色さそてにほふ春とこそ見れ　為家

玉葉　庭にせしはうつりかはれる人のかたきをやちよの初　俊頼

続千　いつ日の影光まさる海のはるかにや春はきぬらん　定家

續後拾　はるかなる山もかすみてけさの新年たちかへりけりとしらるれ　為世

同　いとゝやまさるらん霞しおほく山の雪は消ゆく　為氏

新拾　けふそまさに久しき色は千世のまつなる　為藤

新後拾　あまつ空かすみの色そ久の雲井に春やたつらん　為定

永享二百首　よものあら池の氷のとけゆくやふるさや春のこゝろなるらん　俊成

永享四百首　春そともいはねはよそに　後一条院

同　いけりの光をみよ　定為

同　うちわたす　覚助

同　神代より　俊光

題林愚抄

雑部

天

拾遺　空の海に雲の波たち月乃舟星の林にこきかくるみゆ　人麿

日

新古　天の原あかねさし出る光にはいつれの沼かさえのこるへき　菅贈太政大臣

月

同　月ことになかるとおもひしますかゝみにしの浦にもとまらさりけり　同

新月

同　わすれてもおもはぬものを宵ひのまにかゝる月の影はまちえし　伏見院御製

風

新千　ゆふされはなほなかめいたるまて　二条法印定為

野風

玉　えてきゝつ松のひゝきに　院御製

山夕風

千　霧はれぬ　藤原時昌

松風

玉　かけのあけ松はときはに　前中納言定家

新古　好すみの山　前大納言

同　たかとまく　宜秋門院丹後

同　りれ　有家朝臣

玉　わかくかたちやまつ松けや風のさわく　院御製

松風夜琴

拾　ことの音に峯の松風かよふらしいつれのをよりしらへそめけん　斎宮女御

同　松風の音にみたるゝことのねをひけは子の日の心ちこそすれ　同

竹風滿

金　うき竹の葉末を神の　中務卿具平

夜風似雨

玉　さやかなる秋のよ風の　後京極摂政良経

深洞風老槐

苔むせる　永福門院御製

雲

新古　山わかれとひゆく雲のかへりくる　菅贈太政大臣